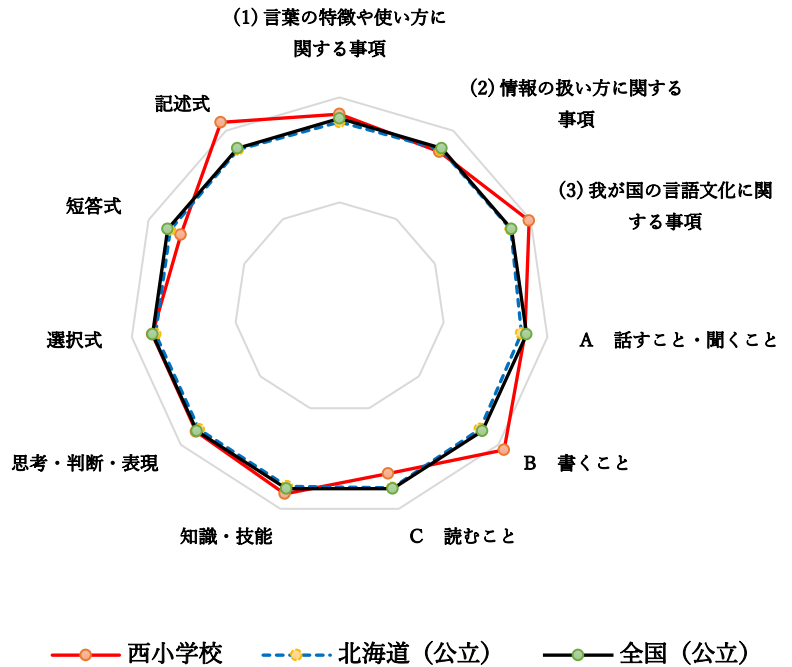


令和6年度全国学力・学習状況調査の概要

～国語科～

- 全道・全国の平均正答率を上回る結果となりました。
- 「我が国の言語文化に関する事項」で、全道・全国の平均正答率を上回りました。
- 「書くこと」の領域で、全道・全国の平均正答率を上回りました。
- 「読むこと」の領域で課題が見られました。
- 昨年度までの課題だった記述式の問題で、全道・全国の平均正答率を上回り、成果が見られました。
- 無回答率の平均が全道・全国平均を下回り、粘り強く取り組む姿勢が見られました。

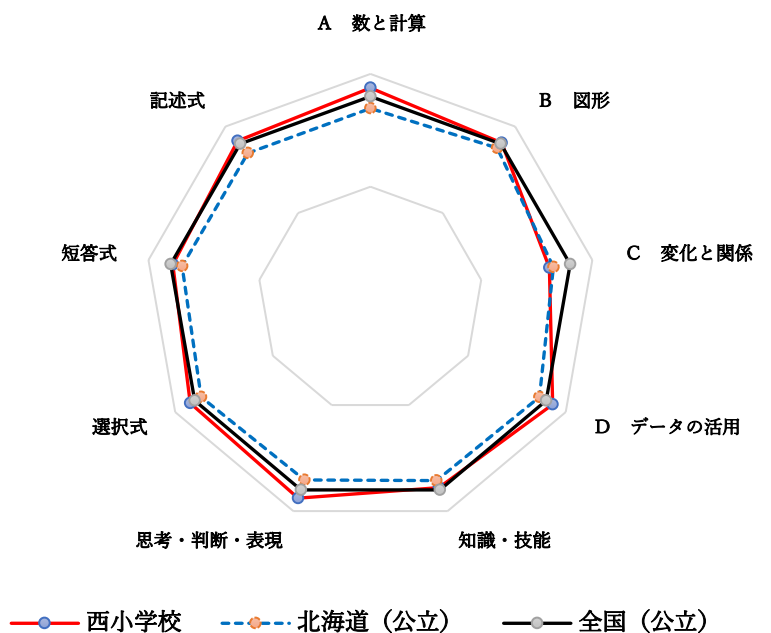
【小学校 国語】



～算数科～

- 全道・全国の平均正答率を上回る結果となりました
- 4つの領域の中では、「数と計算」、「図形」、「データの活用」で、全道・全国の平均正答率を上回り、成果が見られました。
- 「変化と関係」の領域で課題が見られました。
- 全ての問題形式で全道・全国の平均正答率を上回り成果が見られました。
- 無回答率の平均が全道・全国平均を下回り、粘り強く取り組む姿勢が見られました。

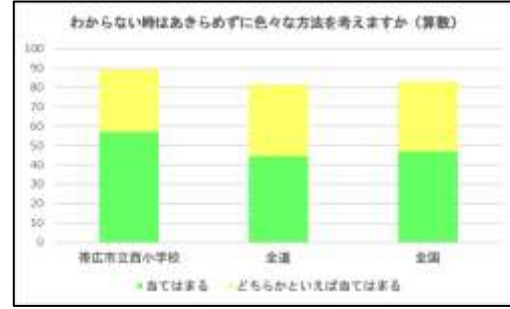
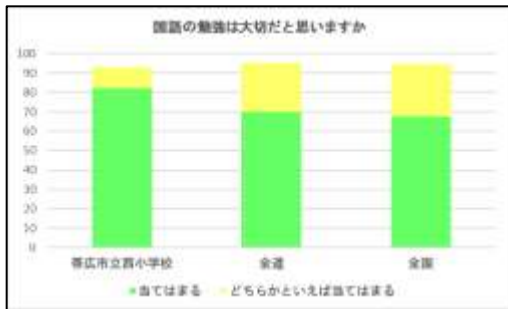
【小学校 算数】



～児童質問紙～ (学習状況や生活状況、規範意識や自尊感情等を質問形式で回答した調査)

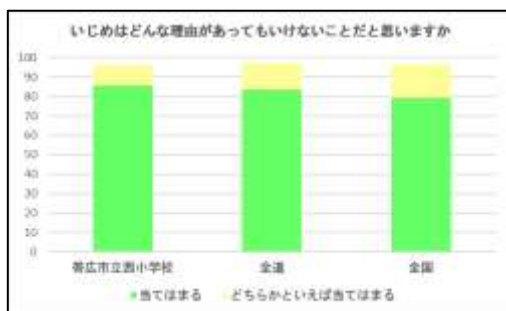
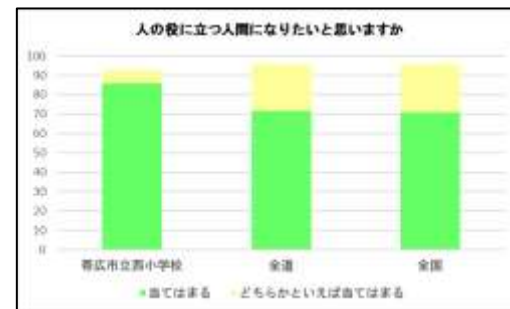
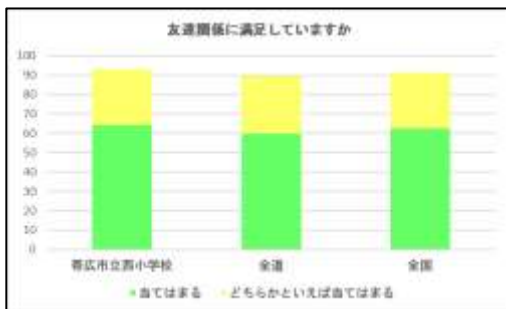
<学習状況>

- 国語の「学習を大切だと思う」、算数の「あきらめずに色々な方法を考える」という設問に「当てはまる」と回答した児童の割合が全道・全国の割合を上回りました。また、国語・算数の両方において「授業内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全道・全国の割合を上回ったことから、課題解決に向けて粘り強く取り組み、よく理解していることがわかりました。
- 友達と協力しながら学習を進め、考えを共有したり比べたりするなど、タブレットなどのICT機器を有効に活用して学習に取り組んでいます。



<生活状況・その他>

- 友達関係に満足している児童や、「いじめはどんな理由があってもいけないことである」という認識をもつ児童や「人の役に立ちたい」という思いをもつ児童の割合が高いことがわかりました。
- △ゲームをしたり、動画を視聴したりする時間が長い(2時間以上)児童の割合が全道・全国の割合よりも多く、一日の過ごし方を見直す必要があることがわかりました。



～成果及び課題への改善策(学校としての今後の取組)～

- ◎令和5年度に比べ、国語・算数の「記述式」の問題、国語の「書くこと」の領域で伸びが見られた。一人一台端末をはじめとしたICT機器の活用による「考えを共有する」ことへの意欲の向上や、全校で取り組んでいる「書くこと」に焦点を当てた「視写」などをはじめとする言語活動の取組により、「書くこと」への抵抗が少なくなった成果と考えられる。
- ◎朝読書をはじめとした「読書」の取組を進めるとともに、国語科を中心として、自分が読み取った内容を整理したり、他の児童と内容について交流したり、話し合ったりするような活動を授業に取り入れていきます。
- ◎タブレット端末をはじめとしたICT機器を授業の中で有効に活用し、児童の興味関心を高めたり、児童が自分の考えを整理したり、考えを深めたりする活動を工夫していきます。
- ◎家庭との連携・協力をより一層深め、一日の過ごし方を見直しを呼びかけるとともに、個に応じた無理のない、家庭学習の質と量の向上を目指します。